

株主のみなさまへ

第106期 報告書

2024年4月1日 ▶ 2025年3月31日

ごあいさつ

株主のみなさまにおかれましては、日頃より当社へのご理解とご支援を賜り、厚く御礼申し上げます。

ここに当社グループの第106期（2025年3月期）の営業概況をご報告し、次期の見通しについてご説明させていただきます。ご一読を賜り、当社へのご理解を一層深めていただければ誠に幸いに存じます。

株主のみなさまには、今後とも倍旧のご指導ご鞭撻のほど、よろしくお願い申し上げます。

2025年6月

代表取締役社長 **片岡 和喜**



第106期の営業概況

当連結会計年度における事業環境は、各種政策による効果で雇用・所得環境が改善する中で緩やかな回復が進みました。一方、欧州経済や中国経済の停滞、地政学リスクに加え、米国の通商政策による影響、為替動向など先行きは依然不透明な状況が続いています。

このような状況の中、当社グループでは、「中期経営計画2025」に掲げる製品開発や顧客ニーズに応える生産体制整備、物価上昇による製品価格の見直し等を進めております。当社グループの取引業界別の経営成績としましては、電子・半導体業界では、注力するパワー半導体用の関連工具は世界的なEV販売の鈍化により停滞した一方、AIをはじめとした先端半導体加工用工具に加え、FPD用、電子部品用、伸線用の工具需要の回復により、売上高は前期に比べ増加しました。輸送機器業界では、自動車生産台数の減少が工具需要に影響した一方、海外での商用車需要や世界的な自動車部品の再編需要を捉えることで堅調に推移しました。また、航空機需要の増加も牽引して関連工具の売上高は前期に比べ増加しました。機械業界では、工作機械業種向け工具需要は停滞したものの、半導体装置用セラミックス業種向け工具の販売が伸び、関連工具の売上高は前年並みとなりました。石材・建設業界では、海外での資源探査需要の停滞に加え、国内では大規模な工事需要が少なかったことで、関連工具の売上高は前期に比べ減少しました。

以上の結果、当連結会計年度の売上高は、410億6百万円(前期比6.1%増)となりました。利益面におきましては、営業利益23億11百万円(前期比51.4%増)、経常利益は30億70百万円(前期比27.5%増)、親会社株主に帰属する当期純利益は投資有価証券売却益の計上等により24億93百万円(

前期比18.2%増)となりました。

期末配当は1株当たり15円を実施し、中間配当の同15円と合わせ、年間配当額は同30円となりました。

次期の見通し

次期につきましては、緩やかな景気回復が期待される一方、地政学リスク、中国経済の鈍化、米国の通商政策変更による、関税や急激な為替変動など経済情勢は不透明な状況が続くものと予想されます。

このような状況の中、当社グループは、「中期経営計画2025」に基づき、脱炭素社会に向けた自動車の電動化や省電力用途で今後大きく需要の伸びが見込まれる電子・半導体関連、また自動車・機械部品関連業種の製品に対して、供給能力増強に向けた国内工場の生産再編成を進めてきました。その結果、今後の需要拡大に即応できる体制を整えています。開発面においても、ユーザーニーズを満たす開発体制の強化を進め、顧客や市場の変化に対応した製品開発のスピードアップを引き続き強化してまいります。

第107期の連結業績予想 (2025年4月1日から2026年3月31日まで)

売上高	42,500百万円	(前期比 3.6%増)
営業利益	2,300百万円	(前期比 0.5%減)
経常利益	2,600百万円	(前期比 15.3%減)
親会社株主に帰属する当期純利益	2,200百万円	(前期比 11.8%減)
年間配当金	1株当たり30円(中間15円、期末15円)	

※ 当報告書に記載の予想は、当社が現在入手している情報及び合理的であると判断する一定の前提に基づいており、実際の業績等は様々な要因により異なる可能性があります。

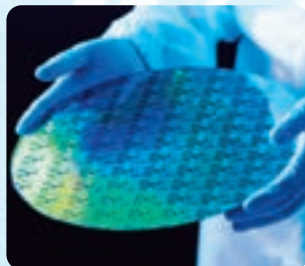
旭ダイヤモンドグループのビジネスフィールド

当社グループは、世の中に存在する最も硬い素材であるダイヤモンド及びCBNを使用した工具を製造・販売しており、「切る」、「削る」、「磨く」、「穿つ」などといったモノづくりの基本となる工程において、幅広い業界のお客様から高い信頼を得ております。

電子・半導体業界

Electronics and Semiconductor

パワー半導体関連の需要は、世界的なEV販売の鈍化に伴い前年より減速しましたが、AI用を始めとした先端半導体用工具需要の増加及び半導体用メモリーの回復、また、FPD需要や電子部品需要の回復で販売は増加し、売上高は166億67百万円（前期比13.5%増）となりました。

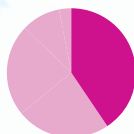


売上構成比

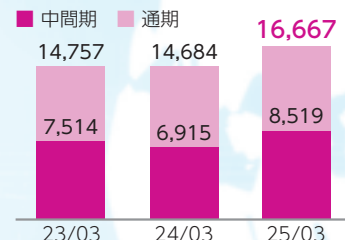
40.7%

売上高

16,667 百万円



売上高（単位：百万円）



輸送機器業界

Transportation

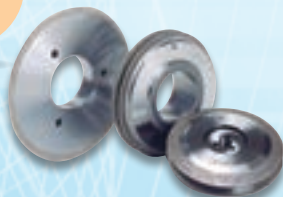
自動車業種では、自動車生産台数の減少が工具需要に影響した一方、海外での商用車需要や世界的な自動車部品の再編需要を捉えることで堅調に推移しました。足元ではEV販売の鈍化があるものの、将来に向けてEV車で必要とされる工具の拡販に努めました。また、航空機業種では、各国で行われていた移動制限等が緩和され、航空機需要の回復が進み関連工具の販売は増加し、売上高は96億92百万円(前期比5.3%増)となりました。

売上構成比

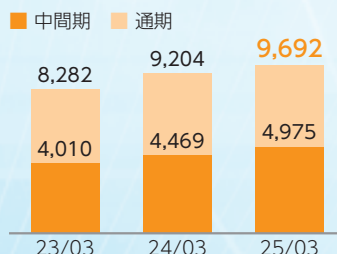
23.6%

売上高

9,692 百万円



売上高（単位：百万円）



機械業界

Machinery

軸受、セラミックス業種では、電子・半導体業界の稼働率の改善により関連する部品需要が回復しました。一方、工具業種では自動車向け工具や中国需要の低迷で関連工具の販売は停滞しました。また、工作機械業種では半導体用工作機械に付属する工具の商流変更に伴う販売減速が影響し、売上高は94億30百万円(前期比0.0%)となりました。

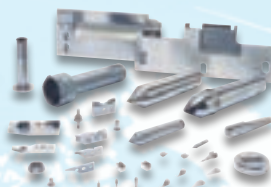


売上構成比

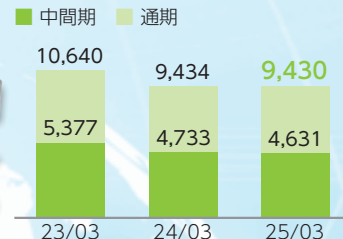
23.0%

売上高

9,430百万円



売上高 (単位: 百万円)



石材・建設業界

Stone and Construction

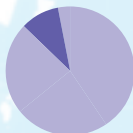
国内の建設業種では、高速道路の補修工事をはじめ、国土強靱化等の施策もあり、公共工事は堅調でしたが、民間工事や解体工事の需要が減少しました。石材業種では、墓石、建築材料等の需要低迷が止まらず販売減少が続きました。また、海外における資源探査需要の停滞も影響が大きく全体の販売が減少したことから、売上高は39億75百万円(前期比5.8%減)となりました。

売上構成比

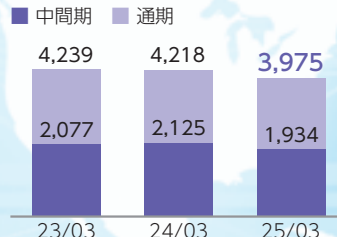
9.7%

売上高

3,975百万円



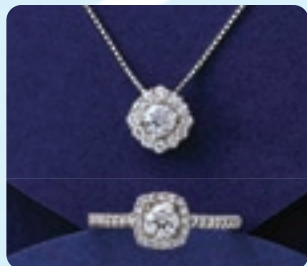
売上高 (単位: 百万円)



その他

Other

大学、研究機関、窯業及び宝飾等上記以外の業種では、窯業業種での炉材改修需要の増加などで、売上高は12億40百万円(前期比11.6%増)となりました。



売上構成比

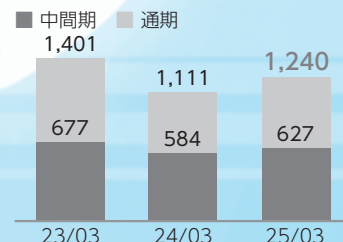
3.0%

売上高

1,240百万円

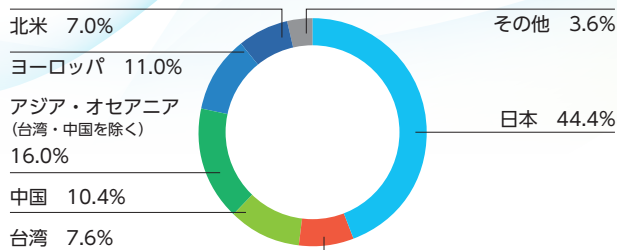


売上高 (単位: 百万円)



地域別の売上の推移

売上構成比



日本

(単位:百万円)

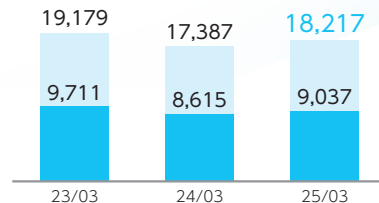
■ 中間期 ■ 通期

売上高

18,217 百万円

売上構成比

44.4%



台湾

(単位:百万円)

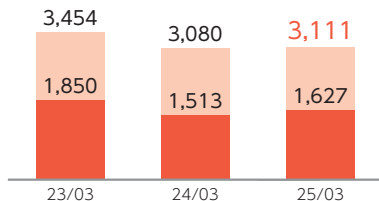
■ 中間期 ■ 通期

売上高

3,111 百万円

売上構成比

7.6%



中国

(単位:百万円)

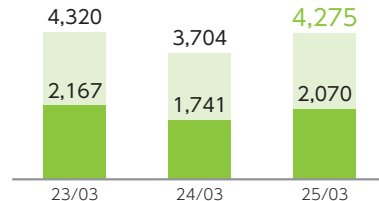
■ 中間期 ■ 通期

売上高

4,275 百万円

売上構成比

10.4%



アジア・オセアニア (台湾・中国を除く)

(単位:百万円)

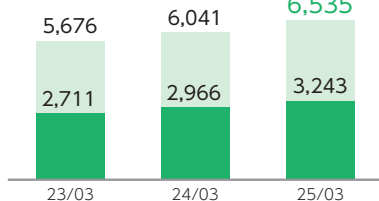
■ 中間期 ■ 通期

売上高

6,535 百万円

売上構成比

16.0%



ヨーロッパ

(単位:百万円)

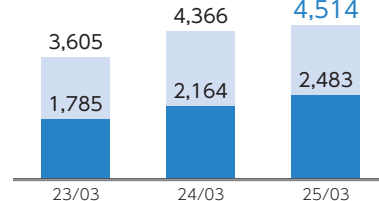
■ 中間期 ■ 通期

売上高

4,514 百万円

売上構成比

11.0%



北米

(単位:百万円)

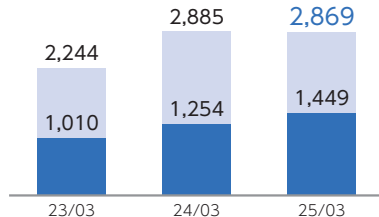
■ 中間期 ■ 通期

売上高

2,869 百万円

売上構成比

7.0%



その他

(単位:百万円)

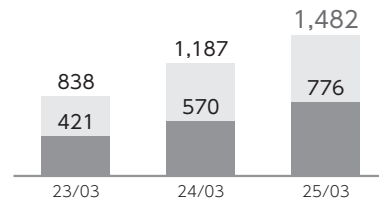
■ 中間期 ■ 通期

売上高

1,482 百万円

売上構成比

3.6%



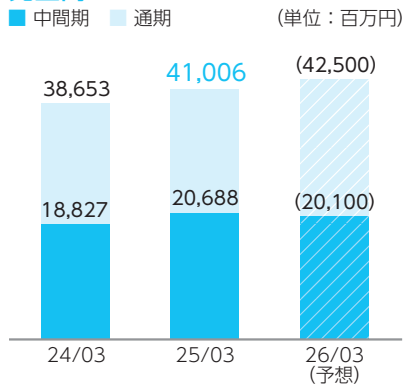
連結業績ハイライト

当期の 業績のポイント

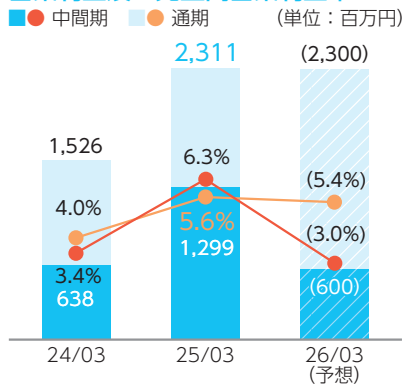
売上高
営業利益
親会社株主に帰属
する当期純利益
年間配当金

41,006 百万円（前期比 6.1% 増↑）
2,311 百万円（前期比 51.4% 増↑）
2,493 百万円（前期比 18.2% 増↑）
30 円（前年同期比 — ）

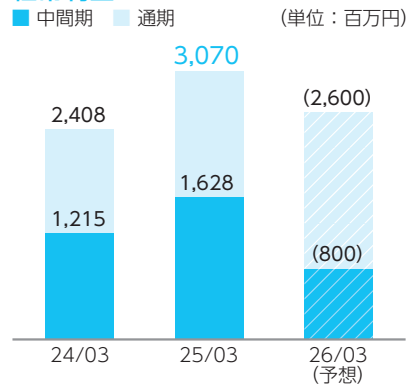
売上高



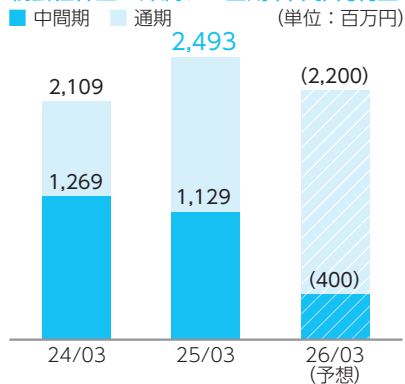
営業利益及び売上高営業利益率



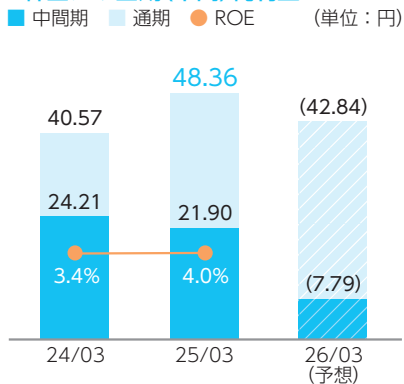
経常利益



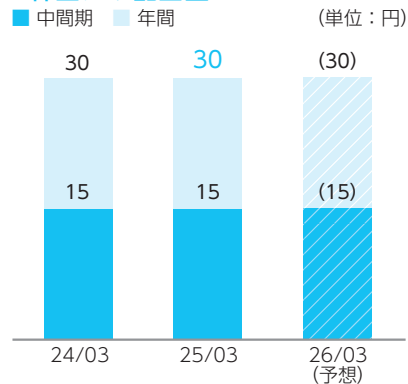
親会社株主に帰属する当期(中間)純利益



1株当たり当期(中間)純利益 / ROE



1株当たり配当金



Topics 1

株式会社東京精密とハブブレードの開発・製造・販売を行う合併会社「AAダイヤモンドテクノロジー株式会社」を設立



当社と株式会社東京精密は、2025年5月9日付けで合併会社を設立しました。当社の強みであるダイヤモンド工具の開発力と、東京精密の強みであるダイシングアプリケーション技術を融合して、高品質かつ価格競争力のあるハブブレードの開発と試作を行います。2027年度下期に量産販売を開始し、初期の段階で10～20%のシェア獲得を目指します。なお、ハブブレードの市場は、2023年度で300億円を超える規模と試算しています。



詳しい情報は
ニュースリリースをご覧ください ▶



Topics 2

自己株式の取得

当社は、中期経営計画に定める資本政策および株主還元の施策として、2025年2月10日～8月31日の期間で、上限200万株、15億円の自己株式の取得を実施しております。なお、2023年度の実績としては200万株、約17億円を取得し全てを消却いたしました。

今後も継続して企業価値向上に努めてまいります。



連結財務諸表

連結貸借対照表の要旨

(単位：百万円)

	当 期 2025.3.31	前 期 2024.3.31
資産の部		
流動資産	34,456	32,601
固定資産	41,895	41,299
有形固定資産	28,845	26,655
無形固定資産	408	351
投資その他の資産	12,640	14,292
資産合計	76,351	73,901
負債の部		
流動負債	6,640	6,185
固定負債	6,131	3,722
負債合計	12,772	9,908
純資産の部		
株主資本	55,615	54,829
資本金	4,102	4,102
資本剰余金	7,154	7,129
利益剰余金	44,783	43,846
自己株式	△ 423	△ 248
その他の包括利益累計額	6,036	7,412
その他有価証券評価差額金	1,997	3,699
土地再評価差額金	185	196
為替換算調整勘定	3,000	2,094
退職給付に係る調整累計額	853	1,422
非支配株主持分	1,927	1,752
純資産合計	63,579	63,993
負債純資産合計	76,351	73,901

連結損益計算書の要旨

(単位：百万円)

	当 期 2024.4. 1 から 2025.3.31 まで	前 期 2023.4. 1 から 2024.3.31 まで
売上高	41,006	38,653
売上原価	29,704	28,655
売上総利益	11,302	9,998
販売費及び一般管理費	8,991	8,471
営業利益	2,311	1,526
営業外収益	801	904
営業外費用	42	23
経常利益	3,070	2,408
特別利益	730	880
特別損失	1	181
税金等調整前当期純利益	3,799	3,106
法人税等	1,130	923
当期純利益	2,668	2,183
非支配株主に帰属する当期純利益	175	73
親会社株主に帰属する当期純利益	2,493	2,109

連結キャッシュ・フロー計算書の要旨

(単位：百万円)

	当 期 2024.4. 1 から 2025.3.31 まで	前 期 2023.4. 1 から 2024.3.31 まで
営業活動によるキャッシュ・フロー	5,765	2,839
投資活動によるキャッシュ・フロー	△ 3,820	△ 3,505
財務活動によるキャッシュ・フロー	△ 212	△ 3,121
現金及び現金同等物に係る換算差額	259	215
現金及び現金同等物の増減額 (△は減少)	1,991	△ 3,570
現金及び現金同等物の期首残高	12,818	16,389
現金及び現金同等物の期末残高	14,810	12,818

詳しい決算情報は当社IR情報をご覧ください。 ➡ <https://www.asahidia.co.jp/ir/>

旭ダイヤ IR



株式の状況 (2025年3月31日現在)

株式の状況

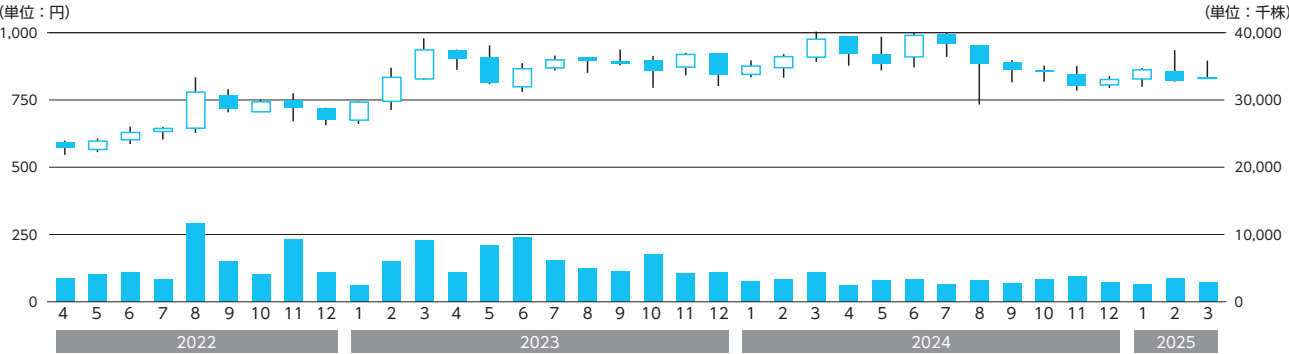
発行可能株式総数	190,300,000株
発行済株式の総数	51,888,600株
株主数	17,974名

大株主 (上位10名)

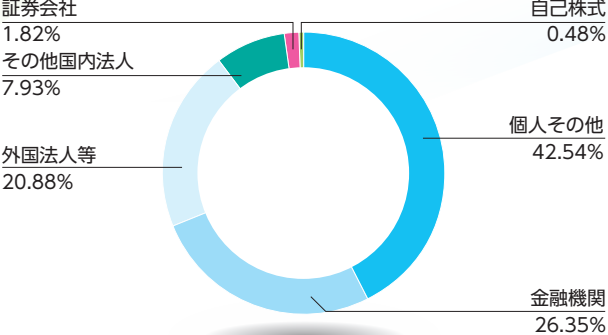
株主名	持株数 (千株)	持株比率 (%)
日本マスタートラスト信託銀行株式会社(信託口)	8,756	16.96
株式会社日本カストディ銀行(信託口)	2,594	5.02
旭ダイヤモンド社員持株会	2,081	4.03
CEPLUX-THE INDEPENDENT UCITS PLATFORM 2	1,754	3.40
旭ダイヤ共栄持株会	1,346	2.61
ユニオンツール株式会社	1,310	2.54
日本生命保険相互会社	1,039	2.01
DFA INTL SMALL CAP VALUE PORTFOLIO	727	1.41
JP MORGAN CHASE BANK 385781	650	1.26
BNY GCM CLIENT ACCOUNT JPRD AC ISG(FE-AC)	482	0.93

(注) 1. 持株比率の計算は、自己株式248,201株を除いて計算しております。
(注) 2. 持株数については、表示単位未満の端数を切り捨て、持株比率については四捨五入して表示しております。

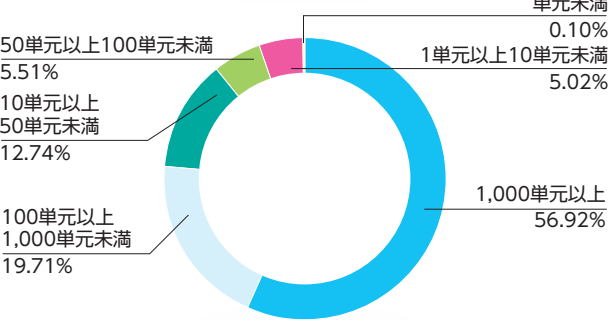
株価・出来高推移



所有者別状況



所有数別状況



会社概要 (2025年3月31日現在)

会社概要

商 号 旭ダイヤモンド工業株式会社
英 文 社 名 Asahi Diamond Industrial Co., Ltd.
本社所在地 東京都千代田区紀尾井町4番1号
設立年月日 1937年10月9日
資 本 金 4,102,188,450円
従 業 員 数 999名 (連結 2,064名)

役員 (2025年6月26日現在)

取締役

代表取締役社長	片岡和喜
代表取締役常務	原智彦
取締役	萩原利昌
取締役	阿部英夫
取締役	松田順一
取締役	川合宏明
社外取締役	小山修
社外取締役	市川祐子
社外取締役	川尻恵理子

監査役

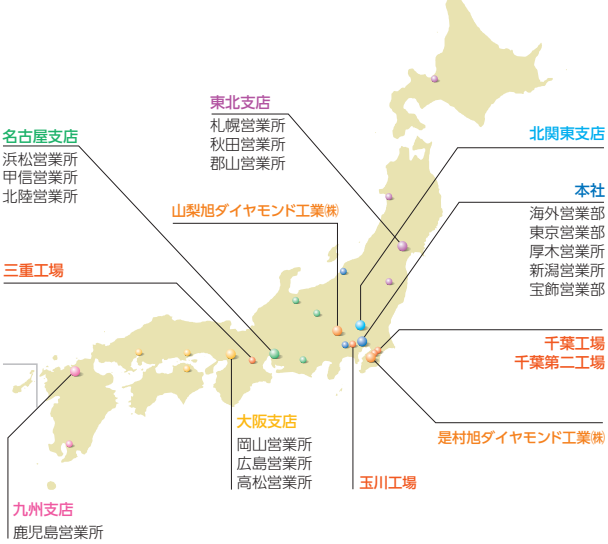
常勤監査役	松崎剛実
社外監査役	大高由紀夫
社外監査役	川嶋誠人

執行役員

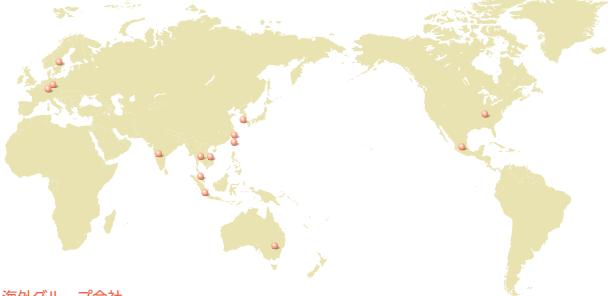
執行役員	藍敏雄
執行役員	松川英樹
執行役員	佐藤公一
執行役員	澤田穰
執行役員	日下部均
執行役員	高橋智樹
執行役員	水谷圭一
執行役員	兼本憲一
執行役員	渡辺勝之

ネットワーク

国内



海外



海外グループ会社

上海旭ダイヤモンド工業 (中国)	旭ダイヤモンドオーストラリア (オーストラリア)
台湾旭ダイヤモンド工業 (台湾)	旭ダイヤモンドアメリカ (アメリカ)
新韓ダイヤモンド工業 (韓国)	旭ダイヤモンドメキシコ (メキシコ)
旭ダイヤモンドタイランド (タイ)	旭ダイヤモンドヨーロッパ (フランス)
旭ダイヤモンドインドネシア (インドネシア)	旭ダイヤモンドドイツ (ドイツ)
旭ダイヤモンドマレーシア (マレーシア)	旭ダイヤモンドスウェーデン (スウェーデン)
旭ダイヤモンドインド (インド)	旭ダイヤモンドベトナム (ベトナム)

株主メモ

決算と配当金のお支払	毎年3月31日を決算期とし、年1回の決算を行います。配当金は毎決算期現在(中間配当をする場合は毎年9月30日現在)の最終の株主名簿に記録された株主又は登録質権者に対し、ご指定の方法によりお支払いいたします。
定時株主総会	毎年6月下旬に開催いたします。
定時株主総会の基準日	毎年3月31日 その他必要がある場合は、あらかじめ公告いたします。
株主名簿管理人及び 特別口座の口座管理機関	東京都千代田区丸の内一丁目4番1号 三井住友信託銀行株式会社
郵便物送付先 (電話照会先)	〒168-0063 東京都杉並区和泉二丁目8番4号 三井住友信託銀行株式会社 証券代行部 電話 0120-782-031(フリーダイヤル)
単元株式数	100株
公告方法	電子公告の方法により、当社ホームページに掲載いたします。(https://www.asahidia.co.jp/) 但し、事故その他やむを得ない事由によって電子公告による公告をすることができない場合は、日本経済新聞に掲載いたします。



WEB サイトのご案内

当社ホームページでは、事業内容をはじめ、最新のニュースリリースやIR情報、ジュエリーの情報を掲載しております。ぜひご覧ください。



URL : <https://www.asahidia.co.jp/>



Asahi Diamond Industrial Co., Ltd.

